

# 熊谷八景

8月号巻頭特集は二〇二〇年八月の熊谷八景として、コロナ禍での夏の八景の特集する。

(取材文小林真、団体名は通称を用いています)

## 一 平和



一般の書店で販売予定という

「何年か前のイベントで、熊谷空襲を知らないという若い人がいて驚きました」(吉田庄一さん)

吉田さん「熊谷空襲を忘れぬ市民の会が中心となり、記念誌『最後の空襲』の製作が進んでいる。

富岡市長、熊谷出身の作家・森村誠一さんの寄稿や空襲の資料と並び、市内高校生による空襲体験者へのインタビューを収録。8月刊行の予定だったが、コロナの影響でインタビューができず、「開戦の12月8日までには」と秋の完成が近づいた。23日には市民の会が2018年から続け今回で26回目となる加藤一夫さんの熊谷平和講座が、『熊谷空襲と戦後』という時代をテーマに開催される(※)。

「今年はどういう流れはありますが、75年目の8月を平和の大事さを考える機会にしたいと思います。とくに若い世代にですね」(吉田さん)

※緑化センターで14時から。問合せは070555517734(ひがしさん)

## 二 仲間

「中学・高校とコンクールや定期演奏会に青春を費やしてきた身として、今の状況は本当に胸が潰れる思い。みんなで演奏する経験は、大人になった自分も幸せにしてくれています。その時の仲間と演奏する喜びを、中途半端に奪われてしまった子どもたちに少しでも噛

「8月以降は協力企業とWebサイトを構築して、クラウドメニューからそのまま注文できるようにあります。いわば熊谷飲食店共有のメニューをつくるイメージ。クーマーイツで培った共同体のペスを開発させて、外部からも注目されるようにしていきたいですね」

## 六 電脳

「やっぱり専用のカメラだと違いね」(町田直昭さん。以下同)

市民活動支援センターコロナ休館以降の最多来館者・町田さん。ほとんどがWeb会議など一関連の相談だ。

所属する熊環連10人ほどの例会だけでなく、100人超の環境団体ネットワークの会議にも参加しなければならぬ。デジタル好奇心の強い町田さんは、高齢化が進む団体のリーダーとなった。

「LINEはやらねえからパソコンでとか、わたしのスマホじゃできないとか、みんなバラバラなんだいな」

シアのWeb会議には難関が多いが、リーダーもZoomで初めて自身のノートPCに内蔵カメラがないと知ったり、新たなアイテム購入のためのネット通販新規登録の方法をききに來たり。そしてそれは、サポートする側の経験にもなる。

「これが3万だったんだよ」

大型ディスプレイのデスクトップでオンラインで「。機器充実で迎える8月は、環境団体が街で活躍する季節だ。

「エコネットの打ち水大作戦Web講習練習会の画像。Googleフォトに入れたんだけど、どうやって送ればいいかな?」

## 七 圧力

「警戒をいつ、どの程度緩めていいのかからず過覚醒状態が続いてしまい、疲弊した反動で抑うつになってしまふケース。もうひとつは、人は疑った方がいいのかという圧力に蝕まれてしまふケースです」(奥野大地さん。以下同)

臨床心理士・奥野さんの勤務先熊谷神経クリニックには、コロナがきっかけで不調を訴える人が多く訪れてるという。



6月、荒川河川敷での演奏撮影会(画像提供:大沢写真館)



2月のCM収録。立正大地域連携センター長・後藤教授は、「就職でFMIに出てるっていいですよ」とよく話していた



石原小ホームページより「お囃子動画」



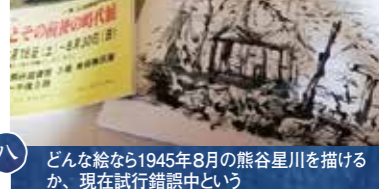
6月、ニットモール上駐車場での「クーマーキッチンカー」



再開後、支援センターでのWeb会議練習会は好評。「自宅からでも参加できます」となっているが、いつも来館する人が多い。



28日時点で関東地方は梅雨明けせず。日照時間の少ない7月だった



どんな絵なら1945年8月の熊谷星川を描けるか、現在試行錯誤中という

みしめてもらえたら」(島崎麻美さん・ホルンママさん)ブルース くまびよ隊)

今号発行の8月1日、熊谷ラグビー場メインスタンドをステージに、同場初の演奏会が行われる。コロナ禍で発表の機会を失った中高生の吹奏楽部にかわりの思いを出してあげたいと、島崎さんら熊谷ラグビー合唱団が呼びかけた部活応援企画「ラグビー場で、のびのび演奏撮影会」だ。合唱も加えた演奏曲は「熊谷市歌」(パブリック)、6月に荒川河川敷に続く開催になる。

ワールドカップでの「スクラム」を、プラスチックのようには響かせた熊谷らしさあふれるこの企画。会場費を捻出するクラウドファンディングも達成され、全国ネットテレビ、全国紙の取材も続いている。このところの感染者増加で自粛ムードが強い中、27日時点で熊谷高音楽部合唱、玉井中吹奏楽部2年生のエンターリーもあつた。

「新学年になってから3年生と何の思い出もつけないのをとても寂しいと思ってた。だからこの機会は嬉しいし、しかもラグビー場で演奏なんてすごくワクワクします」(三浦花穂さん・トロンボーン「富士見中2年」)

「公共施設が使用できず、一般の吹奏楽団はまったく活動停止のまま。活動停止で情熱が薄れるのが心配な中、団員の心をつなぎ留めるのにこのイベントはうってつけです」

(西尾元秀さん・ホルン「虹色MSJHS」奏、さくらホルンの会)

## 三 社会

4月に立正大学とFMクマガヤのコラボ企画がある

「年齢・性別関係ないですね。大学生・営業マン・お婆ちゃんまで。遠隔授業に乗り損ねたり、営業先に行けなかったり、趣味の会に参加できなかったりと、きっかけはバラバラです」

奥野さんは続ける。

「人に会うのがリスクというなら、実はコロナ以前からそうでした。でも、それ以上のリスクがある。危ういけれどありがたいことなんだと、噛み締めることができる機会なのかもしれません」

## 八 帰郷

「この世界のどこでもどつまみれになっても思い切りこの世界であそんでもいいのだ。大島弓子さんのマンガ「ロスハウス」のラストシーンですが、そう思ってた熊谷を出て、すべてを初めてみるような目で戻ってきました」

吉岡中「熊女美術部から美大で日本画を学んだ佐通真由美さん。都内と実家の熊谷を行ったり来たりする中、独特の画風で本誌6月号号外パブリック特集や、立正大学日本酒プロジェクト「谷津の祈り」パッケージ、環境大賞受賞の江南の藤プロジェクトイメージ図などを提供した。

両親が相次いで亡くなったのも、帰郷の理由の一つ。運転免許も取って軽自動車を買って、温泉王国群馬も視野に入れた熊谷ライフを楽しみ始めた。

「ずっと生活というものの手触りが欲しかった。生まれた街は近すぎて私には近視眼的に行き詰まってしまう文化と向き合うことは自分自身との距離感が生まれて尊いことがみえてきていました。何よりもっと自由を目指すために熊谷へ戻ったのです」

本稿の最初、空襲記念誌でもイラストを担当する。「8月は熊谷の賑やかな緑とつらい歴史も、あらためて知ってきたいです」

1945年もそれよりずっと前も、熊谷の8月は31日744時間。森村誠が「苛烈」と呼んだこの季節は、もともとも熱くもとも人々の印象に残る。2020年も同じ8月だ。

てよーえー!?!どんなことやるの?んー、それはきいてからのお楽しみ」

2月オンエアのCMを担当したのは、同大地理学科当時3年生の石田彩貴さんと出浦由佳さん。立正大の今を伝える番組は2回放送され好評だったが、コロナの影響で中断しCMした入学式生放送は入学式自体が中止になり、新4年生は就職活動に突入した。「面接はいまのところすべてWeb。説明会もほとんどがWebでした」(石田さん)

「民間は最終までWeb面接で、組合などはマスク着用対面や個人面接。就職じゃないけど医療系を目指して7月下旬に最小限しかできないと嘆いていました」(出浦さん)

前例のない新社会人準備は、とまどうことばかりだ。「会社だけでなく学校に行けないから、ほかの学生の状況がわからないこと。いいことはないけど、予定した交通費はかかりませんでした」(石田さん)

## 四 挑戦

「修学旅行、遠足ができない。運動会に親も呼べない。そんな中、何か子どもたちが学校に來たくなるようなことができないかと思って…」(関根さん。以下同)

市内の小学校は8月1日から23日まで短い夏休み。石原小の関根達郎校長は、

「新しい発想でないと何も進まない」と、「大勢が参加する行事」ではなく「一人ひとりはたらきかけるかたち」での企画を立て、実現に向けて各方面にアプローチしている。うちわ祭期間中のお

囃子動画公開や、校外へのお囃子の放送「全校直実習」練習のための動画制作公開もその環。運動会はWEB配信を考えている。8月の夏休みの自由研究は、従来の「必ずやりましょ」という位置づけなく「自由応募」という形でそのマニアル動画制作、「遠くまで行かなくてもできること」熊谷市内の新しい修学旅行に向けての準備に取り組む。

「今年しかならないことに挑戦する。今までできなかった何かができれば、それが2020年の成果です」

## 五 拡大

「居酒屋でバイトしていた知り合いの学生が、シフトに入らなくなって生活に困った。飲食店経営者だけでなく、彼らに仕事が入るようなしくみをつくりたいからなんです」

星川近くの「原口商店エテオ」などを運営し、リノベーション物件を得意とする設計士・白田和裕さんが中心となって、4月に有志が社会実験として始めたクーマーイツ」。回を重ねることに参加店舗も売上も増え、市内飲食店での購入を前払いするスクラムがマガヤみらいチケット」(発行・観光協会、市役所駐車場のキッチンカー出店、ニットモール屋上が会場のドライブスルー「クーマーキッチンカー」のスピアウトにつながっている。

市内にいながらわたがいが知らなかった飲食業者や消費者である市民がSNSで意見を交換しながら事業ができたが、そうして生まれた信頼感もあるのが、7月29日に白田さんが開いた飲食店向けインスタグラム講習会には多くの業者が集まっている。

熊谷市特定創業支援事業

今、この時だからチャレンジする価値がある。

# 創業塾

SOGYOJYUKU

これから熊谷市で創業しようと考えている方、事業アイデアはあるが創業に結びつけられない方、起業・独立開業を考えているサラリーマン・OLの方、開業後間もない方、第二創業を考えている方、後継者候補の方、創業に関する基礎知識を短期間で集中的に学べる創業塾を受講しませんか?

**塾生募集 25名 申込締切 9月9日**

**講習内容** 創業に必要な知識を基礎から学べます。講師陣は中小企業診断士、税理士、社会保険労務士、行政書士等、各ジャンルのプロフェッショナルがサポートします!

**実施内容** 本講座:全5日間 17講座  
 <第1回> 9.12(土) <第2回> 9.19(土) <第3回> 9.26(土)  
 <第4回> 10.3(土) <第5回> 10.10(土) 各日9:00~12:30

**費用** 5,000円 (初日にご持参ください)

**会場** 熊谷市立商工会館 2階大ホール

**お申し込み** 熊谷商工会議所ホームページほかよりお申込みいただけます。

主催 熊谷商工会議所 担当/鈴木・須永 E-mail somu@kumagayacci.or.jp TEL.048-521-4600 FAX. 048-525-7272  
 くまがや市商工会 担当/小川 E-mail kumagaya@syokoukai.jp TEL.048-588-0140 FAX. 048-588-0033  
 ▶熊谷商工会議所、くまがや市商工会の窓口へ持参、または電話、FAX、熊谷商工会議所ホームページからも申し込みができます。 熊谷商工会議所 検索

新型コロナウイルス感染症対策として開催いたします。

- 通常80名収容の会場で25名定員とし、入場数の制限を行います。●換気や参加者間の距離に注意いたします。
- 会場には消毒液、非接触型体温計を用意しますので、手消毒、体温測定をお願いいたします。●出席時にはマスクを着用し、体調不良の場合はご遠慮ください。●感染症の状況によっては内容の変更等ございますのでご了承ください。